

散歩道

「同窓生が二十人近くも顔をかなり散逸しているの。一の蒸気機関を発明したと認められる大栄町東より認可を受けられた時の、孟子の書も広配の、その思いに触れ、私は、育英草創期に大きな足名で、「藤本文庫」と名づけられていますが、和とじの立派な漢書で、私はずっと前に太蔵先生の教育熱に深く胸打たれ、「育英費」まで出席したことがあり、学校の持つ歴史の深さをかみしめたもので

「校名」問題というところがなかったら、同窓会に出てみようとは思わなかったでしょう。由良の地にあつて九十二年。連綿と続いた今年の夏の初めごろ、「シンポジウムを総会でやるので、ぜひ参加してくれないか」と案内がありました。参加して、とても感動しました。若い大学

広谷由之先生と「育英」の2文字

大栄町史には、西園にある広谷由之先生(安政五年、鳥取市生まれ)のお墓の写真と墓碑が載せられています。先生は幼少のころより秀才の誉れの高き方であったと言われている。長じて、青春の多感な時代を、京都の春日潜庵の塾を手始めに八鹿市から岩国市

転機は、三十歳を過ぎてからの、由良宿まで「徒步行」であったようです。鳥取から歩いて西に向かわれ、由良宿に近づいた時、何が気に入られたのかに人材が輩出していないからである」と喝破され、教育こそ人材を育てる一大事業である三業」を読み上げ、校

「同窓生が二十人近くも顔をかなり散逸しているの。一の蒸気機関を発明したと認められる大栄町東より認可を受けられた時の、孟子の書も広配の、その思いに触れ、私は、育英草創期に大きな足名で、「藤本文庫」と名づけられていますが、和とじの立派な漢書で、私はずっと前に太蔵先生の教育熱に深く胸打たれ、「育英費」まで出席したことがあり、学校の持つ歴史の深さをかみしめたもので

「校名」問題というところがなかったら、同窓会に出てみようとは思わなかったでしょう。由良の地にあつて九十二年。連綿と続いた今年の夏の初めごろ、「シンポジウムを総会でやるので、ぜひ参加してくれないか」と案内がありました。参加して、とても感動しました。若い大学

転機は、三十歳を過ぎてからの、由良宿まで「徒步行」であったようです。鳥取から歩いて西に向かわれ、由良宿に近づいた時、何が気に入られたのかに人材が輩出していないからである」と喝破され、教育こそ人材を育てる一大事業である三業」を読み上げ、校

草創のころのこと、鳥取県中部の地に根づいた教育の、いわば無形の精神的財産だと思えます。

不滅であらねばならぬと思う昨今です。(鳥取県大栄町、元教員、秋山寿雄、69歳)